令和6年度 授業改善推進プラン<英語科>

大田区立大森第十中学校

○英語科における令和6年度授業改善プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・成果

- ①全学年で、全体・基礎・活用の正答率が全て目標値及び全国平均正答率を上回った。また、観点別正答率、領域別正答率、問題の解答形式別正答率も全ての学年で目標値及び全国平均正答率を上回った。
- ②第1学年では、観点別正答率及び問題の内容別正答率が目標値を上回った。小学校での学習の成果が現れている。
- ③第2学年では、観点別正答率及び領域別正答率が目標値を上回った。特に「書くこと」が目標値を8.8%上回った。日頃から教科書のテーマを用いて文構造を意識したまとまりのある英文を書く機会を設け、表現させる指導に取り組んだ成果が現れていると考えられる。
- ④第3学年では「3文以上の英作文」が目標値を8.7%上回り、全国平均正答率も22.5%上回った。テーマに基づいてエッセイを書き、それに基づいてやりとりしたり、意見を発表したり、英語で表現することを意識的に授業に取り入れた成果が現れている。

・課題

- ①第1学年 問題の内容別正答率では「英作文」が目標値を1.9%上回るに留まった。今後は、既習事項を活用しながら、さまざまなテーマでの英作文を授業の中で実施し、「書く力」を定着させる。
- ②第2学年では、「聞くこと」が目標値を6.4%上回るに留まった。今後は、聞き取るべきポイントを事前に伝え、概要の掴み方を明確にし、概要を聞き取る力と、詳細を聞き取る力の両面を高める指導を行っていく。
- ③第3学年の問題の内容別正答率では「さまざまな英文の読み取り」が、目標値を6.2%上回るに留まった。今後は、教科書の読解においてさまざまな英文を読むことで、読む力をさらに増やす授業を実施する。

○英語における大田区学習効果測定の結果分析

達成率（経年比較）△目標値を上回る ≡目標値と同程度である ▼目標値を下回る

	令和六年度結果	令和五年度結果	令和四年度結果
第1学年	全体 △ 基礎 △ 活用 △	/	
第2学年	全体 △ 基礎 △ 活用 △	全体 △ 基礎 △ 活用 △	/
第3学年	全体 △ 基礎 △ 活用 △	全体 △ 基礎 △ 活用 △	全体 △ 基礎 △ 活用 △

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で、全体・基礎・活用の正答率が全て目標値及び全国平均正答率を上回った。また、観点別正答率、領域別正答率、問題の解答形式別正答率も全ての学年で目標値及び全国平均正答率を上回った。 ・第2、第3学年の結果から、前年度の授業改善策とその実践に一定の効果があつたと考えられる。
観点別結果の分析	<p>【第1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の全ての観点で正答率が目標値及び全国平均正答率を上回った。「思考・判断・表現」に関しては、目標値を11.6%程度上回った。 <p>【第2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の全ての観点で正答率が目標値及び全国平均正答率を上回った。「思考・判断・表現」に関しては、目標値を8.2%程度上回った。 <p>【第3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の全ての観点で正答率が目標値及び全国平均正答率を上回った。「思考・判断・表現」に関しては、目標値を5.3%程度上回った。

○調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 主体的に学習に取り組む態度を育む。
- 2 言語に関する指導を充実させ(文法)、語彙を増やす。
- 3 英文の内容を正確に読み取る力(読む)、英文の内容を正確に聞き取ったりする力(聞く)を高める。
- 4 自分の考えを文にしたり(書く)、話したり(話す(やりとり・発表))表現する力を高める。

○英語科の授業改善策

- 1 主体的に学習に取り組む態度を育むために。
授業においては、生徒が「分かった」という達成感や自己肯定感をもてるように指導の工夫や改善を継続する。また、アクティビティ活動やALTとの会話を通して、意欲を高める。
- 2 言語に関する指導を充実させ(文法)、語彙を増やすために。
第1学年
授業において、チャンツを活用してリズムに合わせて音と文字の結びつきを理解させ、語彙・文法・表現の定着を図る。また、アクティビティ活動やALTとの会話を通して、意欲を高める。
第2学年
新出事項の導入を英語中心で行い、ペアワークやグループワークなどの協働活動を中心にSpeaking練習をより多く取り入れて定着を図る。
第3学年
言語に関する知識を深めるために、TOKYO GLOBAL STUDIOを活用し、どのような場面での文法や表現・語彙を用いることが適切かを理解させることで定着を図る。
- 3 英文の内容を正確に読み取る力(読む)、英文の内容を正確に聞き取ったりする力(聞く)を高めるために。
第1学年
教科書の本文を活用し、語彙や文法の確認や本文の音読だけではなく、シャドーイングなど読みの指導を工夫する。デジタル教科書や副教材を活用して英語を聞いて必要な情報や会話の内容をとらえる力を身に付けさせる。
第2学年
教科書の音読練習(choral reading, pair reading, buzz reading, individual reading)を効果的に取り入れ、教科書の内容理解のために、Oral Interaction、prelistening Task やQAを取り入れ、文章の大意と詳細を読み取らせる。
第3学年
教科書のREADを活用し、精読だけでなくスキミング・スキミング力を高めることで、いろいろな英文を読む力を向上させる。デジタル教科書やリスニング教材を使用し、英語を正確に必要な情報を聞きとる力を身に付けさせる。
- 4 自分の考えを文にしたり(書く)、話したり(話す(やりとり・発表))表現する力を高めるために。
第1学年
授業の帯活動において「Questions & Answers」を行い、即興で話す力をつける。教科書のWriteを活用して、テーマに沿った英作文を行い、書く力を向上させる。また、発表の力をつけるために、スピーチ発表の授業の頻度を増やす。
第2学年
「話す能力」を伸ばすために、毎時間にスモールトークを行い、英語を話す場面を設定し、基本的な文型や基本表現、文法事項を活用して英文を書く時間を確保する。

第3学年

授業において、イントロダクション・ボディ・コンクルージョンに基づいた英文エッセイ指導を行い、自分で書いたエッセイを使ったやりとりや発表を行うことで、表現力を伸ばす。中学校英語「話すこと」トレーニングを活用し、質問に答えたり、状況を描写・説明したり、考えや意見を述べたりできるようにさせる。